

同窓会報

第 28 号

平成23年7月20日

発行
宮城県泉松陵
高等学校同窓会
☎ 022-373-4125

印刷
創文印刷出版(株)
☎ 022-222-0181



繋がりが

同窓会長 13回生 小野 裕 介

このたびは東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

三月十一日、あの日、私は車を運転して三陸道に乗ったところでした。車がガタガタと大きく揺れ、慌てて路肩に停車しました。いつ来てもおかしくない、と言われていた宮城県沖地震が頭によぎり、「ついにきたか」と思いました。ラジオを聞くと緊急地震速報の音が止まらず、揺れも収まりませんでした。ようやく揺れも収まり、周りの車も走り出したため、すぐに三陸道から降りましたが、信号機が止まっているのを見て、これは大変なことになったなと感じながら職場に戻りました。

私は石巻支援学校で勤務しております。学校に戻ると全員が校舎の外に避難していました。中の様子を見てみると廊下に段差ができ、職員室は机の上の書類や、棚の中のファイルやあらゆる物が床に散乱していました。外では雪が降り、電気もつかず、ただただ余震に怯えながら外で過ごしていました。得られる情報はラジオだけでした。「津波が来る」と聞いても、その時は、大丈夫じゃないか、と思う部分がありました。津波の被害は尋常なものではなく、想像以上というか、想像すらできないことばかりでした。学校は避難所となり、職員が交代で泊まりながら避難所を運営していきまいた。津波で生徒は四名亡くなり、家族や家、車を流された教員も多数いました。私もすぐに石巻市内や女川、牡鹿半島、雄勝町まで車で行きました。言葉にできない大変な状況でしたが、言葉に学校も再開できるのか、と感じていました。

しかし現在、私の職場の石巻支援学校は約一ヶ月遅れて再開し、徐々にですが日常を取り戻しています。再開するまでは多くの人たちの支援がありました。避難所となっている時は、全国から多くの食料や衣類、生活物資が送られてきて、多くの人達に支えられていたことを実感させられました。

学校がもうすぐ再開するというときに、色鉛筆や筆、スケッチブックなどの多くの文具を持ってきてくれた人がいました。それは泉松陵時代の私の部活の後輩でした。仕事で文具を扱っている後輩は、道路状況が悪い中、石巻まで届けに来てくれたのです。「たまたま近くまで来たので持って来ただけ」と言っていました。私が石巻で勤務していることを知り、たまたまではなく、遠くまで届けに来てくれたのでした。その行動がとても嬉しく、感動しました。

私はこの震災で人との繋がりとともに、ものを強く感じました。八月には例年通り同窓会総会が開かれます。今年と同窓会会場で皆さんに会うことと例年とは違った繋がりを感ずると思えます。皆さんの参加をお待ちしております。



創立三十周年記念事業として「学習室」「懸垂幕」を設備

校長 大林 茂

同窓会の皆様には、東日本大震災、続く余震に被災されましたことによりお見舞いを申し上げます。

また、日ごろは本校教育の振興・発展そして在校生の激励に御支援・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さらには、この度の創立三十周年記念事業に際しましては、多大なる協賛を賜り感謝を申し上げます。

さて、地震による本校の被害は受水槽・高架水槽・エクスパンション破損、校門通路法面崩落、図書室の書架損傷書籍散乱、理科室・家庭科室等の備品・教材の破損等々がありました。しかし、これらの修復、仮工事は終了し、四月二十一日には始業式・入学式を行いました。

五月一日の泉三校定期戦は震災の影響で中止となり、高校総体に突入りとなりました。総体では、陸上部二年鈴木哲平君が日々の練習成果をいかんなく発揮し、四百メートルハードルで五位に入賞、東北大会へ出場しました。陸上部以外では、弓道部や女子ソフトテニス部を初め、各部門も善戦健闘をしましたが、練習不足のため、上位入賞はできませんでした。

七月八日は松陵祭の校内発表が行われました。二日目の九日には、一般公開と平行し、三十周年記念事業のさきがけともいえる、学習室の披露式及びテープカットが行われました。これは、三十周年実行委員会が記念事業の柱として学習室と懸垂幕昇降装置を提案し、このほど実現に至りました。生徒達は、懸垂幕を朝夕仰ぎ見れば、士気を鼓舞し部活動にも一層拍車がかかるものと思えます。また、学習室を新設し連結キヤ

頑張っています。十一月九日には記念式典を挙行します。生徒と教職員が決意も新たに、一丸となって、努力・前進し同窓会として関係各位の御期待に応えたいと思っています。申し遅れましたが、私は四月一日着任した大林です。創立三年目の昭和五十八年から平成三年まで在職しました。このたび、二度目の着任ですが、校長として、泉松陵高校三十年の歴史と伝統をしっかりと継承し、教育目標の達成に向け全力を傾注します。なにとぞ、引き続き御理解と御協力を心からお願ひ申し上げます。最後に、社会の各界において活躍中の同窓会（平成二十三年三月現在九千四百三十四名）の皆様方の御活躍と御多幸そして同窓会の益々の御発展を祈念し、御挨拶とします。

平成23年度 宮城県泉松陵高等学校同窓会 総会・懇親会ご案内

日時 平成23年8月13日(土)
受付 16:30 ~ 17:00
総会 17:00 ~
懇親会 17:30 ~

会場 ホテル白萩
☎022-265-3411

会費 3,000円



会場案内図

※ 同封のはがきに出欠の有無等を記入していただき、50円切手貼付の上8月4日(木)必着にてご返送ください。
今年は7・17・27回生担当の先生を御招待しています。

泉松陵風信録

鶴が丘で歯科医院開業

五回生 菅原 直樹



昭和六十三年三月、三年間通った泉松陵高校を卒業した私は、歯科医師になる為、岩手医科大学歯学部に進学しました。大

学では講義や実習の他に、クラブ活動をするのですが、入部したのは空手部。経験は無かったのですが、同期で入学した友人や先輩と色々な飲みものを飲みながら話をしているうちに、気が付いたら入部してしまいました。講義や実習も難しく大変だったのですが、肉体的、精神的に極限状態に追い込んでのクラブ活動があったからこそ、講義や実習、そして試験を乗り越えてこれたのかも知れません。

卒業してからは、研修医として大学に残り、口腔外科という医局に入局しました。口腔外科というのは、横を向いたり骨の中に埋まった親知らずを抜いたりする他、口の周囲の粘膜の病気や顎の骨折、また口の中に出た癌の治療など、様々な病気の治療をする所で、沢山の病気の治療に携わる事ができました。

仙台に戻ってきたのは平成十五年です。将来の事を考えた時に、地元仙台で地域医療に貢献したいと考えていたところ、学生時代の友人が勤務していた太白区の歯科医院からのお誘いがあり、これを機に仙台に帰ってきました。勤務していた歯科医院は、患者数が多く、大学や、その出張先の病院歯科で勤務していた時と違う忙しさや大変さを感じつつも、直接患者の皆様の声を聞き、喜ばれたり、またお叱りのお言葉を頂いたもの、その日々の臨床の場で得たもの

は、貴重な経験となりました。

日々の診療の中で、自分なりの地域医療への貢献についての一つの答えが導き出されました。「開業」です。院長という立場で、直接地元の方々の声を聞き、今までお世話になった多くの方々に対しお返しをしたい。その思いを実現させるため、開業の準備を進める事にしました。場所の選定は、特に難しく、仙台市内をはじめ、仙南地区や東北、山形県など様々な地域での紹介を頂き、それぞれの立場条件や患者数のシミュレーションなどを検討する訳ですが、何か心を突き動かす決め手が無いまま月日が経過してしまいました。ある日、建築屋さんから、「鶴が丘ってどうですか？」と紹介があり、それに対し、「えっ、鶴が丘って...」と言葉を返しながら、何とも言えない懐かしい思いが頭の中を巡りました。

正直、冷やかしか半分で見学に行く事にしたのですが、そこには成長した街路樹の下で、以前と変わらない慣れ親しんだ風景が広がり、優しい風が吹いていました。数日間思い悩んだ末、鶴が丘でやろうと決めました。場所やタイミングの問題もあり、歯科医師会に三度呼び出され、考え直すように説得されましたが、私の思いをお話し、平成十九年九月に無事開業する事が出来ました。開業から間もなく四年を迎えます。大きな事故もなく、ここまでやって来る事ができました。これからも、お世話になった地元鶴が丘で地域医療に貢献すべく、また、松陵生の目標の先輩となれるよう、日々頑張つてゆきたいと考えております。

最後になりましたが、東日本大震災でお亡くなりになった方のご冥福をお祈りすると共に、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

『三十周年』に寄せて

一回生 山本 修

先日同窓会役員会に出席するために母校を訪ねた。校庭では後輩諸君が部活動を行っていた。校舎に向かう途中、皆、おはようございます、こんにちはと元気に声をかけてくれた。それに私も、出来る限り元気な声で応えながら校舎に向かう。

誰から押し付けられたわけでもないこの自然な挨拶は、今でも続いているのだなと、何となくほっとした気持ちになった。大惨事となった震災後少し時が経ち、学校もだいぶ落ち着きを取り戻したようであったが、校舎をみるとまだ傷跡が残っていた。しかしその傷だけではない時の流れを感じずにはおれなかった。

第一回生として入学した私達の高校生活は、新しい香りのする北側の校舎と体育館しかない状態でのスタートだった。晴れた日の体育館の授業や、空き時間には自分達でグラウンドを整備し、化学の授業では実験室がまだ無かったので、教室の狭い教壇の上にとろせまじと薬品を並べ、先生が窮屈そうに試験管を振りながら授業をされたこと等、様々なことが思い出される。

このように、私達の高校生活は全てが満たされてはいなかったが、不自由に思ったことはなかった。自然と自分達で何とかするという考えを学んだ三年間であった。今思えば、当時の先生方も、私達が自分たちで考える時間を多く持つるように配慮して下さっていたのではないかと思う。最近後輩諸君の活動や活躍をテレビや新聞等のメディアで目にすることも多くなった。そして会話の中では、私達が在学中には聞くことの無

かった伝統という言葉が飛び出すようになった。

日々明るく交わされる元気な挨拶や、前向きに取り組む姿勢が現在の様々な成果に繋がっているのだろう。創立三十周年、節目の年を迎え、これまで学校の発展に尽力された皆様に感謝の意を表するとともに、後輩諸君、同窓生のさらなる飛躍を祈念致します。

『真善美幟』に想いを寄せて

六回生 応援団同窓会縁松会 本間 純一

われらが母校の校歌の歌詞に「象る姿真善美」いざかざせ誇の校章」とあります。校章には三つの松の葉が象られておりこれは校訓「自律啓発 友愛協調 堅忍不撓」を意味しています。すなわち、作者は校訓の追及こそ社会の普遍的価値である真善美への道であると説いているのではないのでしょうか。

そして泉松陵応援団では数多くある幟の中でも昭和六十一年に作られた「真善美幟」は格別のもので位置付けられ、様々な会場で松陵健児を鼓舞してきました。しかし、四半世紀の歳月を経てこの「真善美幟」も色褪せ、今では使用に堪えない程に疲弊してしまいました。そこで我が縁松会では開校三十周年を記念して、忠実にこの幟を復刻し寄贈する事により後輩諸君に志を受け継ぎたいと考えました。この度の東日本大震災にて私たちの郷土は甚大な被害を被りました。この大禍を乗り越え復興して行く為に、全松陵生はより一層の「真善美の探究」を実践し、社会に貢献して行きますよ。

(平生 十三年六月 被災地 石巻市にて)



教育実習を終えて

二十三回生 松嶋 拓

振り返ればあっと言う間の三週間でした。目に映る様々な光景が新鮮で、普段の大学生活では学ぶことのできない多くのことを経験することができました。生徒としての立場から見た泉松陵高校と、教師としての立場から見た泉松陵高校ははるかに異なっていました。生徒の学習のために先生方がどれほど努力し、苦勞しているのか。五年前に高校生だった私には到底わからなかった多くのことが、この三週間で見えてきました。

久しぶりに帰ってきた泉松陵高校には、私の担任だった先生や当時の学年主任の先生が今でもいらっやいます。五年前は生徒として親切なご指導を頂きましたが、今回は教師の一人として接して頂き、親切で時に厳しいご指導を頂きました。当時と同様に、そこには先生方の変わらぬ「熱意」がありました。教科指導、生活指導、部活指導等に関して、様々な先生からの貴重なアドバイスを頂くことができました。これらは公立高校の教師を志望している私にとっての一生の宝物になることは間違いありません。指導を頂いた諸先生方



には感謝の思いでいっぱいです。

教育実習生という身分でしたが、一人の教師として教壇に立たせて頂き、自分を再発見することが出来ました。教材研究の甘さ、言葉遣い、声の出し方など、日常の生活では気付かない多くの課題を洗い出す機会となりました。「自分が思っているようにには伝わらない」あたりまえのようで、難解な事実を現実の場で身を持って体感することができました。私にとっては取るに足らないような事柄であっても、生徒には十分に伝えられないことが多く、もどかしい思いをこの教育実習中で幾度も経験しました。これは私の経験のなさや努力不足に起因するものであり、時間をかけて解決していくものであることは言うまでもありません。この教育実習を糧にして、より一層の努力をしていきたいと思っています。

最後に、この三週間で私に関わったすべてのみなさんに感謝申し上げます。親切なご指導を頂いた先生方、私の稚拙な授業に耳を傾けてくれた生徒のみなさん。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。



母校に勤務して

二十七回生 友杉 沙耶

三月十一日に発生した東日本大震災により職を失い、途方に暮れている時に一本の電話が鳴りました。それが、母校である泉松陵高校に臨時職員として勤務して欲しい、という連絡でした。

震災の復旧作業、文書作成補助、整理整頓、湯茶接待など仕事は様々。二年前まで毎日通っていた学校も、立場が変われば全く違う場所に感じることも多々ありました。廊下ですれ違った生徒に挨拶されることは三ヶ月経った今もなかなか慣れません。先生方と話す時も今までそれほどはなかったはずの緊張感も生まれましました。また、事務経験が無かったためパソコン以外の事務作業はほとんど一からのスタート。しかし在職の事務員の皆さん、司書さん、技師さんが一つひとつの仕事丁寧にご指導下さったおかげで何とかやってこられました。

その一方、学校に勤務しながら就職活動をしなければなりません。就職活動のしなげはなくなり、地震による雇用情勢の悪化。案の定なかなか見つかりません。「最近どうだ。」と聞かれれば「難しい。」と

しか答えられません。とにかく早く定職をみつければ、という焦りばかり募っていきました。そんな時、在学中に教わった先生方が忙しい中、まるで二年前のように話して下さることは、本当に励みになりました。今現在こうして母校に勤務してみて、やはり「学校」で学べることは、まだまだあったと感じています。このような形で再びこの泉松陵高校に戻ってくることは予想だにしませんでしたが、これもきっと今後の糧になるに違いないと思っています。またとはないであろうこの「学ぶ」チャンスを最大限に活用し、前を向いて歩いて行こうと思います。

養護実習をおえて

二十五回生 豊嶋 宜紀

私は男性ながら養護教諭という課程にいます。養護教諭という言葉はあまり聞き慣れないと思いますが、保健室の先生のことです。私が高校生だった頃に進路やプライベートの悩みを真剣に聞いてくれ、時には授業が嫌になった時に叱ってくれる養護教諭のような先生になりたいと思いました。女性の先生には相談しづらいため抱えた時に男性の先生がいてもいいのではないかと気づいたのが養護教諭を目指す一番のきっかけでした。保健室には女性の先生がいるものだと思いますが、男性には男性の良さがあり生徒にとって自分の心と体のバランスをとるためにとても重要な役割と考え実習に臨みました。実習中は緊張と反省の

連続で、想像していたものとの違いから時間に追われる毎日でした。生徒をよく見なければならぬのじつくり見られないことで何も理解出来ないのではないかと反省や後悔ばかりしました。しかし、保健室に男の先生がいることに對して嫌がる素振りをする生徒がいなかったどころか、受け入れて、生徒から話しかけてくれたことが素直に嬉しかったです。養護教諭としては何もかもが未熟で、応急処置や保健室来客者の対応、保健だより作成、保健指導に伴う指導案の作成などを大学で勉強した気になっっていました。教育現場で実際に体験してみると勉強したことが本當に基本中の基本でしかないことに気付かされました。日々のケースごとに対応が違ってくる中、来室者対応をしたり保健だよりを作成したりすることができたので時間に追われながらも充実した濃い内容の実習が行えたことが嬉しかったです。保健指導は何も上手いはず、指導案も何回も書き直しました。何をやっても駄目な私でしたが、先生方にはもちろんのこと、生徒にも支えられたことで実習を終えることができました。

実習を引き受けてくださった校長先生をはじめ、専門科目担当、HR担当、部活担当、多くの先生方、心優しい生徒たちには大変ご迷惑をおかけしましたが、貴重な体験をさせていただきとても感謝しています。三週間ありがとうございました。



平成22年度 宮城県泉松陵高等学校同窓会会計決算書

収入総額 2,217,061円 支出総額 1,879,543円 差引残額 337,518円

収入の部

(単位 円)

支出の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減, 備考. Rows include 会費, 入会金, 年会費, 繰越金, 雑収入, 合計.

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減, 備考. Rows include 1運営費, 会議費, 旅費, 慶弔費, 需用費, 通信費, 2事業費, 報償費, 会報発行費, 積立金, 3予備費, 合計.

積立金

Table with 4 columns: H22. 3. 31現在, 預金利子, H22年度積立額, H23. 3. 31現在積立額. Values: 7,646,792, 6,514, 500,000, 8,153,306.

通帳及び関係書類を監査したところ、いずれも正確に処理されていることを報告します。

平成23年 5月21日

監事 伊藤 治子, 監事 高橋 美希子

平成23年度 宮城県泉松陵高等学校同窓会会計予算書 (案)

収入の部

円

支出の部

円

収入の部

(単位 円)

支出の部

Table with 5 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 増減, 備考. Rows include 会費, 入会金, 年会費, 繰越金, 雑収入, 積立金, 合計.

Table with 5 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 増減, 備考. Rows include 1運営費, 会議費, 旅費, 慶弔費, 需用費, 通信費, 2事業費, 報償費, 会報発行費, 積立金, 30周年記念事業, 3予備費, 合計.

同窓会事務局 3・11東日本大震災 三月十一日の大地震により、泉松陵高校校舎、及び校舎周辺は大きな被害を受けました。校舎周辺の道路には、あちらこちら亀裂が入って溝ができた。隆起や陥没により車はもろろん自転車でも通行に注意が必要な状況になっている。本校校舎では、生徒昇降口や三・四階の教室や職員室のガラスが割れた。図書館の本棚が崩れ本が散乱し、地震にも耐えられないようになり、かなり本棚が必要である。また、貯水槽がダメージを受けて、にわか工事水道水を流しているが圧力の関係で北校舎は四階・南校舎は三階より上で水道が使用できない状況にある。校舎の壁にも亀裂が入り中の鉄筋が見えるのを防いでいる。体育館のガラス窓も一部割れたり、二階部分は危険な状況にあるためギャラリも使用禁止とされている。一般高校入試後に発生した大地震のため、「合格発表日」も遅らせたことや新年度の始業式も四月二十一日となりました。毎年恒例五月一日実施していた泉三校定期戦も中止となりました。また、硬式野球の「春の大会」も中止となりました。県総合体育大会は各種目毎に調整しあいながら大学、高校、体育館を借用して実施。文化部関係でも、吹奏楽部が定期演奏会を実施する予定だったが会場確保が困難となり、実施できない状況である。美術部も校外での作品展示会が出来ない状況です。震災直後は、ライフラインに大きく影響し、学校では電気・水道・ガスが使用できない日々が続き、ガスと水道は三月三十一日現在でも普及しませんでした。先生方の中には、栗原市金成から通っている先生は、自転車でも6時間かけて通勤した先生もいました。幸いにも生徒の犠牲者は一名もおりませんでした。災害に遭われた同窓生の方々またご家族の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

卒業生の進路状況

◎平成22年度卒業生（平成23年3月卒業・28回生）進路状況

| | 卒業生 人数 | 進 学 | | | | 就 職 | | 受験準備 未定・その他 |
|----|-----------|-----|------|------|------|-------|-------|----------------|
| | | 大 学 | 短期大学 | 看護医療 | 専門学校 | 一般企業等 | 公 務 員 | |
| 男子 | 132 | 105 | 1 | 0 | 11 | 0 | 3 | 11 |
| 女子 | 142 | 81 | 9 | 9 | 20 | 8 | 1 | 14 |
| 計 | 274 | 186 | 10 | 9 | 31 | 8 | 4 | 25 |

◎大学合格者 (延べ合格数)

国公立大合格者

| 大 学 | 学 部 | 学 科 | 22年度 |
|-------|-------------|-----------------|------|
| 秋 田 大 | 工 学 資 源 | 地 球 資 源 | 1 |
| 福 島 大 | 経 済 経 営 学 類 | 国 際 地 域 経 済 | 1 |
| | | 事 業 計 画 | 1 |
| | | 食 産 業 | 2 |
| 宮 城 大 | 食 産 業 | フ ェ ャ ム ビ ジ ネ ス | 1 |
| | | フ ェ ャ ム ビ ジ ネ ス | 1 |
| | | 物 質 化 学 | 1 |
| | | 人 間 文 化 | 1 |

県内私大合格者

| 大 学 | 学 部 | 学 科 | 22年度 |
|-----------------|---------------|-------------------------|------|
| 石 卷 専 修 大 | 経 営 工 学 | 経 営 | 2 |
| | | 機 械 工 | 1 |
| | | 情 報 電 子 工 | 2 |
| | | 生 物 生 産 工 | 3 |
| 尚 綱 学 院 大 | 総 合 人 間 | 現 代 社 会 | 6 |
| | | 子 ども | 3 |
| | | 生 活 環 境 | 3 |
| | | 人 間 心 理 | 2 |
| 仙 台 白 百 合 女 子 大 | 人 間 | 表 現 文 化 | 6 |
| | | 健 康 栄 養 | 2 |
| | | 総 合 福 祉 | 1 |
| | | 国 際 教 養 | 3 |
| 仙 台 大 | 体 育 | 総 合 福 祉 | 3 |
| | | 人 間 発 達 | 7 |
| | | 運 動 栄 養 | 1 |
| | | 健 康 福 祉 | 1 |
| 東 北 学 院 大 | 法 | 現 代 武 道 | 1 |
| | | ス ポ ー ツ 情 報 マ ス メ デ ィ ア | 2 |
| | | 体 育 | 2 |
| | 文 | 法 律 | 5 |
| | | 英 文 | 11 |
| | | 総 合 人 文 | 1 |
| | 工 | 環 境 建 設 工 | 10 |
| | | 機 械 知 能 工 | 3 |
| | | 電 気 情 報 工 | 6 |
| | | 電 子 工 | 8 |
| 経 営 | 経 営 | 8 | |
| 経 済 | 共 生 社 会 経 済 | 8 | |
| 教 養 | 経 済 | 7 | |
| | 言 語 文 化 | 1 | |
| | 情 報 科 学 | 5 | |
| | 人 間 科 学 | 1 | |
| 東 北 工 業 大 | 工 | 建 築 | 1 |
| | | 情 報 通 信 工 | 5 |
| | | 知 能 エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス | 2 |
| | | 都 市 マ ネ ジ メ ン ト | 1 |
| | ラ イ フ デ ザ イ ン | ク リ エ イ テ ィ ブ デ ザ イ ン | 2 |
| | | 安 全 安 心 生 活 デ ザ イ ン | 3 |
| 東 北 生 活 文 化 大 | 家 政 | 経 営 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン | 3 |
| | | 健 康 栄 養 | 1 |
| | | 生 活 美 術 | 1 |
| 東 北 文 化 学 園 大 | 医 療 福 祉 | 看 護 | 1 |
| | | リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン | 1 |
| | | 保 健 福 祉 | 2 |
| | 科 学 技 術 | 知 能 情 報 シ ス テ ム | 2 |
| | | 人 間 環 境 デ ザ イ ン | 2 |
| | | 総 合 政 策 | 2 |

| 大 学 | 学 部 | 学 科 | 22年度 |
|---------------|-----------------|---------------------|------|
| 東 北 福 祉 大 | 医 療 福 祉 | 社 会 福 祉 | 5 |
| | 総 合 マ ネ ジ メ ン ト | 情 報 福 祉 マ ネ ジ メ ン ト | 1 |
| 東 北 薬 科 大 | 薬 | 薬 | 3 |
| | | 生 命 薬 科 | 1 |
| 宮 城 学 院 女 子 大 | 学 芸 | 英 文 | 5 |
| | | 音 楽 | 1 |
| | | 国 際 文 化 | 4 |
| | | 食 品 栄 養 | 3 |
| | | 心 理 行 動 科 学 | 4 |
| | | 児 童 教 育 | 1 |
| | | 生 活 文 化 デ ザ イ ン | 1 |
| | | 日 本 文 学 | 5 |
| | | 発 達 臨 床 | 6 |

県外私大合格者

| 大 学 | 学 部 | 学 科 | 22年度 |
|---------------|-----------------------|-----------------------|------|
| 岩 手 医 科 大 | 薬 | 薬 | 1 |
| 国 士 館 大 | 政 経 | 政 経 | 1 |
| 札 幌 国 際 大 | ス ポ ー ツ 科 学 | ス ポ ー ツ ビ ジ ネ ス | 1 |
| 城 西 大 | 経 済 | 経 済 | 1 |
| 聖 徳 大 | 児 童 | 児 童 | 1 |
| 創 価 大 | 文 | 人 間 | 1 |
| | 商 | 経 営 | 1 |
| 千 葉 工 業 大 | 社 会 シ ス テ ム 科 | 経 営 情 報 科 | 1 |
| 帝 京 科 学 大 | 聖 芽 衣 環 境 | ア ニ マ ル サ イ エ ン ス | 3 |
| 東 海 大 | 海 洋 | 海 洋 生 物 | 1 |
| 東 京 工 科 大 | コ ン プ ュ ー タ サ イ エ ン ス | コ ン プ ュ ー タ サ イ エ ン ス | 1 |
| 東 京 農 業 大 | 地 球 環 境 科 | 造 園 科 | 1 |
| 東 北 芸 術 工 科 大 | 芸 術 デ ザ イ ン 工 | 文 芸 | 1 |
| | | 企 画 構 想 | 1 |
| | | グ ラ フ ィ ッ ク デ ザ イ ン | 1 |
| | | プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン | 1 |
| 日 本 大 学 | 工 | 機 械 工 | 1 |
| | | 電 気 電 子 工 | 1 |
| | | 理 工 | 1 |
| 明 海 大 | ホ ス ピ タ リ テ ィ | ホ ス ピ タ リ テ ィ | 1 |
| も の つ くり 大 | 技 能 工 芸 | 製 造 技 能 工 芸 | 1 |
| 流 通 経 済 | 経 済 | 経 済 | 1 |
| | | 経 営 | 1 |

国公立・私立短大合格者

| 短 大 | 学 科 | 22年度 |
|---------------------|-----------------|------|
| 聖 和 学 園 短 大 | 保 育 福 祉 | 5 |
| | キ ャ リ ア 開 発 総 合 | 3 |
| 岩 手 県 立 大 宮 古 短 大 | 経 営 情 報 | 1 |
| 山 形 県 立 米 沢 女 子 短 大 | 英 語 英 文 | 1 |

看護医療系合格者 (延べ合格数)

| 学 校 名 | 22年度 |
|-----------------------------|------|
| 岩 手 看 護 学 校 | 1 |
| 亀 田 医 療 看 護 専 門 学 校 | 2 |
| 仙 台 医 師 会 付 属 准 看 護 専 門 学 校 | 1 |
| 仙 台 医 療 セ ン タ ー 看 護 助 産 学 校 | 2 |
| 仙 台 徳 洲 会 看 護 専 門 学 校 | 1 |
| 帝 京 高 等 看 護 学 院 | 1 |
| 宮 城 高 等 歯 科 衛 生 士 学 院 | 2 |

今春の進路状況

進路指導部長 阿部 敏夫

進学

平成二十三年三月卒業生の大学進学状況は、四年制大学一八六名、短大十名の計一九六名で、大学進学率は約七二％となり、ほぼ例年並みであった。しかし、大震災のため三月十一日以降、国立大学や県内の私立大学の後期日程の入試が軒並み変更となり、本校生徒も影響を受けた。仙台市内の各高校でもその影響は避けられず、後期日程での合格者の数字を落としている。本校の大学進学希望者二〇七名のうち現役合格率は約九五％で、市内の高校の中でも高い数字を示している。国立大十名を始め、東北学院大も工学部や英文学科を中心に述べ七十四名が合格している。反面、県外の大学に進学者の割合は前年度の二二％から十三％と減少し、地元志向の強さが強調されるものであった。生徒の希望と実際の進学先、特に志望学科の方向的にミスマッチはなく志望通りの進学ができたようである。今後の課題としては一般入試の合格者の増加である。そのためにはセンター試験の得点率アップや私大の一般入試に対応できるような実力の養成が急務である。そのため、進路指導部では、課外授業の参加率や講義内容の充実をはかり、模試データの有効活用、教務と連携で授業内容の工夫・向上を呼びかけるなど、質の向上を図っている。

体の約十四％でほぼ例年並みであったが、公務員予備校に進む者が例年より多かった。通信教育や自学で取れる民間資格が取得目的の専修・各種学校や、大学短大と同一の資格が取れる専修学校であれば、大学・短大への進学を勧めている。理容・美容や調理師など、国家試験資格の取得が目的の専修学校については、将来の就職も見据え、実績を見ながら慎重に学校を選ばせたい。

民間企業は東北電力など八名で、合計十二名は全体の四％にあたる。不況の影響からか、公務員志望が多く、民間企業を受験しない者が多かった。不況の影響でも本校は民間企業志望者の決定率は〇年三月末までには一〇％であったが、今回の震災のため、三月に控えていた十件がすべて白紙となった。幸い、就職決定者の内定取り消しや自宅待機はなかった。今年度は大幅な求人減少や公務員試験の難化が予想されるが、就職希望の生徒にはきめ細やかな対応を心がけたい。

高総体、その他の大会結果

専修・各種学校
看護専門学校に九名を含め、四十名が専修・各種学校に進学した。全

- ★バスケットボール男子
 - 〈県大会〉一回戦 対村田 1137 | 52
 - 二回戦 対伊具 101 | 56
 - 三回戦 対仙台南 67 | 93
- ★ハンドボール男子
 - 〈地区予選〉一回戦 対仙台向山 24 | 25
- ★サッカー
 - 〈県大会〉二回戦 対東合工業 2 | 0
 - 三回戦 対古川工業 0 | 1
- ★バレーボール女子
 - 〈地区大会〉一回戦 対中新田 2 | 1
 - 二回戦 対多賀城 0 | 2
- ★ソフトボール
 - 〈県大会〉一回戦 対石巻市女 0 | 7
- ★新体操
 - 〈県大会〉団体戦 4位
- ★陸上競技男子
 - 〈県大会〉 鈴木 決勝進出 5位
 - 400 m H 鈴木 決勝進出 5位
 - 500 m 高橋 決勝進出 13位
 - 500 m 中鉢 決勝進出 16位

- 〈東北大会〉
 - 走り高跳び川名 決勝進出 12位
 - 500 m W 木村 決勝進出 9位
 - 400 m 太宰 準決勝進出
 - 1600 m R 加藤・太宰・村岡・鈴木 準決勝進出
- ★剣道女子
 - 〈県大会〉団体戦 リーグ2位
 - 第一試合 対白桜 3 | 2
 - 第二試合 対石巻商 1 | 2
 - 第三試合 対井築館 4 | 1
- ★卓球男子
 - 〈県大会〉団体戦 3 | 0
 - 一回戦 対東北工大 3 | 0
 - 二回戦 対上沼 2 | 3
 - 三回戦 対塩釜 ベスト32

- ★卓球女子
 - 〈県大会〉団体戦 2 | 3
 - 一回戦 対登米
- ★バドミントン男子
 - 〈県大会〉団体戦 3 | 0
 - 一回戦 対上沼
 - 二回戦 対聖ウルスラ 0 | 3
- ★バドミントン女子
 - 〈県大会〉団体戦 2 | 3
 - 一回戦 対伊具
- ★ソフトテニス男子
 - 〈県大会〉団体戦 2 | 1
 - 一回戦 対古川学園
 - 二回戦 対本吉響 1 | 2
- ★ソフトテニス女子
 - 〈県大会〉団体戦 2 | 1
 - 二回戦 対迫桜
 - 三回戦 対小牛田農 2 | 1
 - 四回戦 対三桜 1 | 2
- ★弓道男子
 - 〈地区予選〉団体戦 13中 優勝
 - 〈県大会〉団体戦 準順決勝進出
- ★弓道女子
 - 〈地区予選〉団体戦 9中
 - 〈県大会〉団体戦 準順決勝進出

平成二十二年度 教職員人事異動

- 〔転出者〕
- 石崎 哲朗校長《英語》ご退職
 - 三浦 岩雄《社会》ご退職
 - 遠藤 昭一《社会》ご退職
 - 相澤 ふさ《養護教諭》ご退職
 - 小岩 且典《数学》
 - 昇任・校内異動《主幹教諭》
 - 鷲 貴子《英語》 視覚支援学校へ
 - 岡崎 淳《数学》 仙台東高へ
 - 神林麻理奈《英語》 仙台高へ

- 〔退職〕
- 高城布実与《理科》
 - 八木 直子《国語》
 - 大泉 貢《技師》
 - 清原 一彦《保健体育》
 - 橋本 貞雄《数学》
 - 佐藤 美紀《国語》

同窓会 11の1年の活動

- 〔転入者〕
- 大林 茂校長《国語》
 - 小野木 徹《社会》 名取北高より
 - 平山 元春《社会》 多賀城高より
 - 佐藤ゆかり《養護教諭》 塩釜高より
 - 黒田 浩光《英語》 仙台西高より
 - 山岸 龍《数学》 宮城水産高より
 - 佐藤 未央《英語》 黒川高より
 - 大友 紀夫《主査》
 - 〔再任用〕 仙台二華高より
 - 《常勤・非常勤・臨時職員》
 - 北郷 直幸《国語》
 - 吉本 裕《理科》(継続)
 - 齊藤 秀雄《英語》(継続)
 - 若松 成美《数学》(新規)
 - 及川 拓哉《国語》(新規)
 - 岡 悠司《庁務》(新規)
 - 友杉 沙耶《事務》(新規)
- 11・2・5(出)第4回役員会
2・28(月)同窓会入会式
3・1(火)第28回卒業式
5・21(土)第1回役員会
6・18(土)第2回役員会
7・16(土)第3回役員会
7月中旬 同窓会報第二十八号発
行・発送
8・13(土)第二十八回総会・懇親会